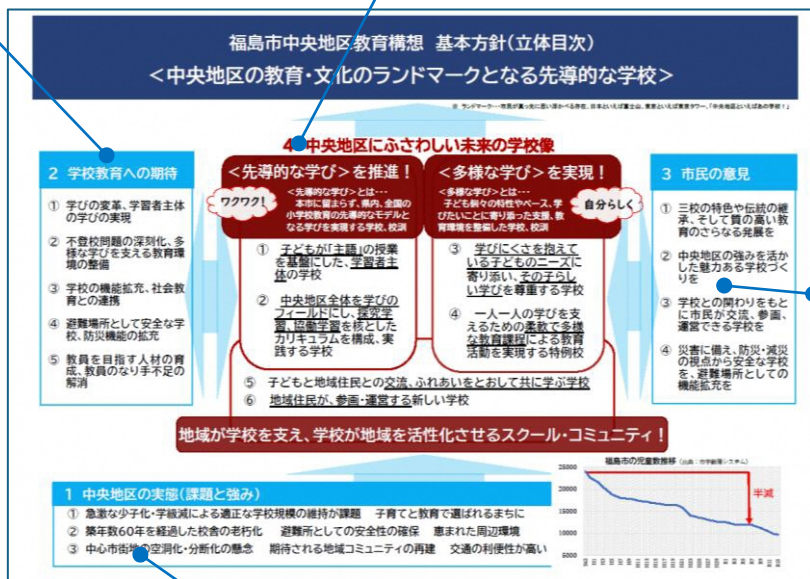


# 福島市中央地区 小学校再編に向けた基本方針

## 2 学校教育への期待

## 4 中央地区にふさわしい未来の学校像



## 1 中央地区の実態・課題

令和7年7月  
 福島市中央地区教育構想検討会

【検討委員(五十音順)】  
 江川順子 大石洋輔 大槻博太 尾形哲夫 小野國武 笠原聡美 菅野浩智 黒澤絹子 古関勝利 紺野正人 斎藤 剛  
 迫田順子 佐久間善一 佐藤早苗 鈴木綾美 田中淑子 山本 巖 渡邊 裕 渡辺博志(委員長) 渡邊真魚(副委員長)

## はじめに

本検討会の設置目的は、「福島市立小・中学校の適正規模・適正配置に係る第一次実施計画（2018年度～2027年度）」に基づき、中央地区のうち、児童数減少や学校施設築年数等の実態から、福島第一小学校、福島第四小学校、清明小学校の3校再編に向けて、どのような学校が期待されるのか、その学校像を示す基本方針を策定することである。これまで、令和6年2月から、学校視察研究・協議を計9回重ね、3校の特色や地域で受け継がれてきた伝統文化を、新しい学校に引き継ぐとともに、さらに質の高い教育に発展させたいという各委員からの期待を集約し、検討してきた。その中で、学校再編を通して、

・「多くの子どもたちが集まることで、これまで望んでも少人数のため実現が難しかった教育活動が思い切ることができる。」

・「多くの友達や教師、地域と関わることで、多様な人々とコミュニケーションが図られ、社会性が育まれる。」

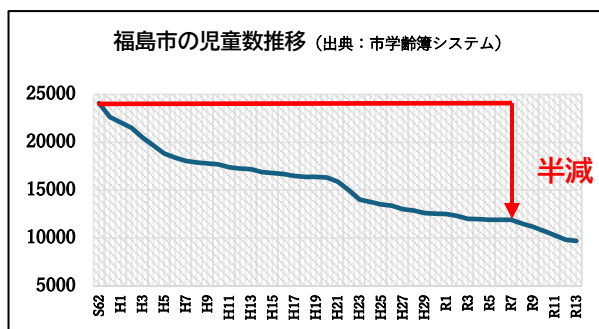
等の未来に向けた前向きな方向性を共有してきた。本検討会としては、この中央地区において、子どもと保護者、地域が願うような教育・学校を形にし、中央地区ならではの学びを実現させ、誰もが通いたい、通わせたいと思えるような魅力ある学校にしたいと考え、本市、本県の学校教育を先導するような教育・学校のモデルとなるよう基本方針を策定した。

# 1 中央地区の実態(課題と強み)

## (1) 急激な少子化、学級減による適正な学校規模の維持

本市の児童・生徒数は、急激な減少傾向にあり、ピーク時より約5割減少し、その対応は喫緊の課題である。福島第一小学校、福島第四小学校、清明小学校においても同様である。

本市は、少子化社会を見据え、2018年から10か年計画として、福島市立小・中学校の適正規模・適正配置に係る第一次実施計画を策定し、その中で、小学校においては、クラス替えが可能となる各学年2学級以上、全校で12学級～18学級を、適正規模の学級数と定めている。しかし、本市の学校の現状を踏まえ、当面は各学年1学級を維持できる規模を下限としている。なお、福島第四小学校は、令和6年度から、複式学級が1学級となっている。



## (2) 築年数60年を経過した校舎老朽化の問題、防災上の課題、恵まれた周辺環境

3校の学校施設は公共施設の標準耐用年数である60年を経過しており、校舎及び体育館の老朽化が進んでいる。子どもたちの安全・安心を確保する上で、早急な建替や大規模な改修工事を要している。

また、清明小学校は、福島市ハザードマップでは浸水・洪水エリアに位置しており、児童が登下校時に使用している通学路に歩道がないこと、学校周辺の道路の道幅が狭い上、交通量が多い現状であるから、学校の立地には登下校も含め児童・生徒の安全を最優先に確保する必要がある。

## (3) 地域の空洞化・分断化の懸念 期待される地域コミュニティの再建、交通の利便が高い

地域の活性化はどの地区においても課題である中、中央地区においては、大学等の高等教育機関、県庁や市役所等の立法行政機関、金融機関や商店街、JR福島駅、豊富な人材と素晴らしい地域文化等、中央地区ならではの強みとして恵まれた環境がある。そのような地域が分断することなく、学校と地域の交流や地域の学校への参画を通してさらに魅力ある地域コミュニティに発展する可能性を秘めている。

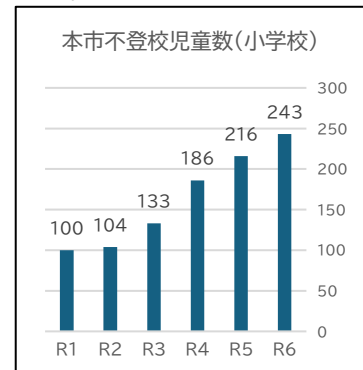
## 2 学校教育への期待

### (1) 今、求められる「学びの変革」

現行の学習指導要領では、急速に学びの変革が求められている。これまでのような教師の講義形式による一斉指導の授業から脱却し、子どもたちの「やってみたい」という学習意欲や主体性を重視した学習者主体の学びへの質的改善が必要とされる。

### (2) 深刻化する不登校問題への対応、多様な学びを支える教育環境、教育課程の整備

不登校児童生徒の増加は、全国的な傾向だが、本市でも最重要課題であり、対策が急務である。2(1)のような授業により、学ぶ意義や楽しさを実感できる授業の積み重ねが不登校問題の対策には重要であるが、学びにくさを感じている子どもへの教育環境、教育課程の整備も併せて急務である。



### (3) 学校の機能拡充と社会教育等との連携

学校は子どもたちの学ぶ場であるとともに、地域の財産でもある。地方分権が拡大する中、地域における地域住民と子どもとの交流や教育活動への参画、学校施設の活用は、現在直面しているJR福島駅東口の再開発やまちづくりの課題に対する貢献も期待される。

### (4) 避難場所として安全な学校、防災機能の確保

気候変動を想定した防災対策は必須である。中央地区には、荒川や阿武隈川があり、ハザードマップを基にした洪水対策に備えなければならない。避難所としての機能を確保し、安全な学校施設の整備が求められる。

### (5) 教員を目指す人材の育成と教員不足解消

教員不足は深刻な課題である。中央地区は交通の利便性が高い。大学生や高校生、教員を目指す若者が学校との関りやボランティア活動を通して、教員への憧れや教員を志望するきっかけとなる取組を意図的に展開できることも中央地区の強みの一つである。

## 3 市民の意見

### (1) 3校の特色や伝統を継承し、さらに質の高い教育を！

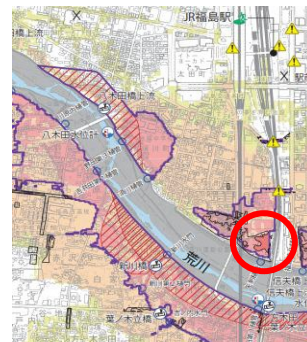
福島第一小学校、福島第四小学校、清明小学校の3校は、これまで長い歴史の中で多くの人材を輩出し、本市学校教育に極めて多大な貢献をしてきた。今後、3校と3つの地域をさらに発展させるためにも、地域と学校との連携強化を期待したい。子どもたちの元気を地域に発信したり、中心市街地の課題への取組を子どもたちの豊かな発想で活性化したりすることも考えられる。

### (2) 中央地区の強みを活かした魅力ある学校を！

大学や県庁、税務署や検察、警察署等の各種公共機関や金融、中央郵便局、商業施設、さらには信夫山や荒川の豊かな自然等、恵まれた環境を教材化する工夫、人材活用を実現させる学校と地域の新しい関係づくりにより、充実した体験活動に加えて、生きた職業人と接することによるキャリア教育を取り入れた中央地区ならではの学習が展開できる。専門分野の人材活用や子どもが中央地区に学びに出かけるなど、創意工夫により学びの可能性は無限大である。

### (3) 学校との関わりをもとに地域住民が教育活動に参画、積極的な交流を！

学校は子どもたちの学ぶ場であるのと同時に、地域住民に開かれた学びの場でありたい。地域スポーツクラブが体育館を活用するように、学校図書館や音楽室、家庭科室等の特別教室を地域住民が利用できる仕組みづくりも考えられる。また、地域住民の社会教育への参加のしやすさ、学習ボランティア運営等によって、地域分断ではなく、地域コミュニティの発展が期待される。



### (4) 防災面から安全な学校を、避難場所としての機能確保を！

清明小学校は洪水浸水エリアにあるため、安全対策が急務である。また、これからの学校は、避難所としての機能を確保し、安心して避難できる施設であることが求められる。

## 4 中央地区にふさわしい未来の学校像(3つの提言)

### (1) 「先導的な学びを推進する学校」を提言します！

子どもが「主語」の授業を展開することで、子ども自らが学ぶ力を育成する学校を実現していきたい。また、中央地区全体を学びのフィールドにした探究学習や協働学習を中心にしたカリキュラムの実践によって、本市、本県を代表する先導的な学校を目指していきたい。

### (2) 「多様な学びを実現する学校」を提言します！

学びにくさを抱えている子どものニーズに寄り添い、その子らしい学びを尊重する学校の実現が求められている。また、子ども一人一人の学びを支えるためには、柔軟で多様な教育課程による教育活動が必要である。交通の利便性が高い中央地区の強みを生かして、市内全域から受け入れるフリー学区の「学びの多様化学校(不登校特例校)」が本市に求められている。

### (3) 「地域が学校を支え、学校が地域を活性化させるスクール・コミュニティ」を提言します！

これからの新しい学校は、社会教育や生涯学習の観点が不可欠である。地域住民と子どもが互いに交流し合うとともに、地域住民が教育活動の一部に参画することで、「地域で子どもを育て、子どもに学ぶ地域」を実現させ、生き生きとした元気な地域をつくりたい。

また、学校図書館や音楽室、家庭科室等の特別教室は、授業での活用に加え、放課後や夜間には地域住民が活用できる制度を構築することで施設の有効利用、子どもと地域住民とのふれあいの場を創出していきたい。

以上の3点をまとめると、本検討会では、中央地区にふさわしい未来の学校として、以下のような学校の実現を提案する。

### 中央地区の教育・文化のランドマークとなる先導的な学校

※先導的…中央地区ならではの学びを地域と共に実現しようとする新しい学校、本市の先頭を走る、リードするという意味

### おわりに

福島市中央地区には、地域社会と学校が、一体となって創り、磨き、蓄えてきた教育の形がある。

本検討会の目的は、それらを土台とし「学校の再編」を通して新しい時代の教育構想を提案することにあつた。全9回に及ぶ会では、100項目以上にわたる論点を通して、中央地区小学校の教育をデザインする議論を重ねてきた。その検討は教育財産の一つといえよう。

提案の中で使われている「ランドマーク」という言葉は、地域の目印という役割以上に中央地区の地域教育・文化のシンボルとしての意味をもっている。

いつも進取と実践力をもった教育と文化を発信し、未来を拓く力を考え続けていってほしい。